

説明	検査項目	検査の意味
①	BMI・肥満度	体重(kg)÷身長(m) ² をBMI(Body Mass Index)といい、22が理想とされています。 肥満度(%)=(BMI÷22-1)×100 標準体重=身長(m) ² ×22と計算されます。
	総コレステロール	高値では動脈硬化になりやすく、甲状腺機能低下などによる場合もあります。肝臓病や栄養障害で低下します。
	中性脂肪	皮下脂肪の主成分。糖質やアルコールの摂りすぎで増えやすく、動脈硬化の原因となります。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールとも言われ、血管壁に沈着した余分のコレステロールを回収して肝臓に戻す働きをします。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも言われ、血管壁に蓄積して動脈硬化の直接の原因になります。
	尿糖	尿中に含まれたブドウ糖。陽性のときは、糖尿病、腎性糖尿などが疑われます。
	血糖	血液中のブドウ糖量。食後は値が高くなるので空腹時に採血します。値が高いときは、糖尿病の疑いがあります。
	HbA1c	検査前1~2カ月の平均の血糖を反映する検査。検査直前の食事に影響されないので糖尿病の指標となります。
⑧	尿酸	血液中の尿酸量。高値では、痛風、尿路結石、腎臓疾患、動脈硬化になりやすく、血液疾患を疑う場合もあります。
	赤血球	血液中で酸素を運ぶ血球。値が低いときは貧血が疑われ、値が高いときは多血症などが疑われます。
	血色素(ヘモグロビン)	赤血球中の赤い色素(血色素)で、酸素を全身に運ぶ働きをします。低値では貧血が疑われます。
	ヘマトクリット	血液中に占める赤血球の容積の割合。値が低いときは貧血が疑われ、高いと多血症や脱水が疑われます。
	MCV・MCH・MCHC	平均赤血球の容積やヘモグロビンの指数で、低値では鉄欠乏性貧血等が疑われるなど貧血の補助診断になります。
	白血球	体内に侵入した細菌や異物などから体を守る免疫の働きを担う血球。高値では感染症、血液疾患などが疑われます。
⑨	血小板	血液が固まるときに重要な働きをする血球。値が低いときは、血液疾患、肝疾患などが疑われます。
	尿素窒素	体内の老廃物の1つで、腎臓から尿に排出されます。高値は腎臓障害を表しますが、脱水などでも軽度上昇します。
	クレアチニン	体内の老廃物の1つで、腎臓から尿に排出されます。高値では、腎臓疾患、尿路閉塞等が疑われます。
	eGFR	eGFRは血清クレアチニン値をもとに、年齢・性別を考慮して算出した糸球体濾過量のこと、腎機能の評価に使われます。
	尿蛋白	血中の蛋白が尿に出てきたもので、陽性の場合、腎炎、ネフローゼなどの腎臓疾患が疑われます。
⑩	尿潜血	尿に含まれる血液。陽性の場合には腎臓、尿管、膀胱、尿道、前立腺などの疾患が疑われます。
	AST(GOT)	肝・心臓、骨格筋などに多く含まれる酵素。値が高いときは、これらの部位の疾患が疑われます。
	ALT(GPT)	主に肝臓に含まれる酵素。値が高いときは、脂肪肝や肝炎、肝硬変などの肝臓疾患が疑われます。
	γ-GT(γ-GTP)	高値のときは脂肪肝や飲酒・薬剤などによる肝障害や、胆道の病気が疑われます。特に飲酒によく反応します。
	ALP	肝、腎、骨等に広く分布する酵素。高値では肝・胆道疾患の疑い。他に甲状腺疾患や骨の異常のこともあります。
	尿ウロビリノーゲン	胆汁中のビリルビンが腸内細菌によって分解されてできたウロビリノーゲンが尿中に出現したものの。(+)のときは肝臓病や溶血性貧血、(-)のときは肝内胆汁うつ滞、閉塞性黄疸などが疑われます。
	HBs抗原	B型肝炎ウイルスの抗原。陽性のときは、現在B型肝炎ウイルスに感染していることを表します。
	HBs抗体	B型肝炎ウイルスの抗体。陽性のときは、過去に感染して現在はすでに免疫があることを表します。
⑬	HCV抗体	C型肝炎ウイルス抗体。陽性のときは現在または過去の感染を表し、HCV-RNAなどの詳しい血液検査によって現在ウイルスが体内に存在しているかどうか調べる必要があります。
	RF(リウマチ因子)	血清中のリウマチ因子。値の高いときは慢性関節リウマチが疑われるが、他の膠原病、肝疾患等でも上昇します。
⑬	BNP	心臓にかかる負荷に応じて心室から分泌されるホルモンで、心不全など心臓の機能異常で上昇します。
⑤	ヘリコバクターピロリ菌検査	胃潰瘍、胃がん等の原因となりうる菌の感染を調べる検査。陽性の場合、内視鏡で胃炎が確認されたり、潰瘍等を伴う場合は除菌が考慮されます。ただし、血中抗体は除菌後も陽性が続くことがあります。
⑥	便潜血検査	便に含まれる血液を測る検査で、(+)のときは消化管(主に大腸)の疾患が疑われ、大腸の検査を要します。
⑦	PSA	前立腺特異抗原といわれる腫瘍マーカーのひとつで、前立腺がんや前立腺肥大症などで高くなります。
	CEA	腺がん(消化器がんや肺がん、乳がん等)で高くなりやすく、喫煙の影響で軽度上昇することもあります。
	CA19-9	腫瘍マーカーのひとつで、主に膵がんや胆道がん、時に消化器がん、卵巣がんなどで高くなる場合があります。
	AFP	主に肝臓がんで上昇する腫瘍マーカーですが、肝硬変や肝炎、その他のがんででも上昇することがあります。
	シフラ	肺がん(特に扁平上皮がん)で上昇しやすいが、他に食道がん、子宮頸がん等他部位の腫瘍で上がることもあります。
	CA125	腫瘍マーカーのひとつで卵巣がん、子宮がんなどで上昇しやすいが、子宮内膜症でも高値を示すことがあります。
⑬	FT3・FT4	甲状腺から分泌されるホルモンで、代謝を調節します。高値ではバセドー病等、低値は橋本病などが疑われます。
	TSH	脳下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン。甲状腺機能異常や下垂体疾患の診断に使われます。